

佐賀市 7 歴史探訪

まんぶじま 万部島

佐賀城の絵図を見ると、東堀に半島状に突き出ているところがあります。ここを万部島といいます。ここは、領国の安泰や領民の無事、五穀豊穰を願って、歴代佐賀藩主主催による法華経一万部の読経が行われた所で、それを記念する石塔群が建てられています。

万部島の由来は、永正2(1505)年、龍造寺家兼主催による法華経一万部の読経がなされ、ついで天文14(1545)年にも2回目の法華経読経がなされました。これ以来「万部島」と呼ばれたそうです。

龍造寺氏の村中城(現在の佐賀西高等学校付近)や水ヶ江城(現在の赤松小学校付近)があった頃のことですが、本来の万部島は、その両城の間の堀や川に浮かぶ島であったのかもしれませんが。それが、鍋島直茂・勝茂父子による佐賀城造営によって、絵図にあるような形に整備されたものと考えられます。「牛島」「愛敬島」という地名に見るように、そのころの中心部は堀や湿地に囲まれた「島」が点在していたのではないのでしょうか。

現在、万部島周辺は埋め立てられていて、当時の景観は残っていませんが、建ち並ぶ「万部塔」を見て、佐賀藩の宗教行事や、広大な堀を思い浮かべてみませんか。



▲万部島



さがじょうぶんけんおんえず
▲佐賀城分間御絵図(鍋島報效会蔵)



▲万部塔



▲佐賀の役記念碑



市営バス佐嘉神社前下車 徒歩5分

一口メモ

万部塔が建ち並ぶエリアの南に佐賀の役記念碑があります。この碑には佐賀の役の犠牲となった江藤新平、島義勇をはじめ二百余名の戦没者名が刻まれています。この碑は、もとは西の御門付近にありましたが、大正9年に、この地に移設されました。